

【様式】

令和2年度 学校マネジメントシート

学校名（三重県立伊勢まなび高等学校）

1 目指す姿

(1) 目指す学校像		<ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒が安心して楽しく学べる学校 ○ 生徒が学びたい内容を自分のペースに合わせて学べる学校 ○ 生徒が社会に出て自立できる力を身につけられる学校
(2)	育みたい 児童生徒像	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒が生き生きと楽しく学校生活を送ることができている。 ○ 生徒が自ら将来や進路を考え、社会に出て自立できる力や社会生活の基盤となる確かな学力を身につけている。
	ありたい 教職員像	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒の基礎学力向上・定着のために、授業規律を大切にし、生徒の学習意欲を引き出す授業の工夫・改善に努めている。 ○ 通級指導に必要な知識・スキルを身に付け、生徒一人ひとりの特性や実態に応じた適切な指導・支援を行うことができる。 ○ キャリア教育の重要性を理解し、生徒が学ぶことと将来のつながりを見通し、社会的・職業的に自立する力を身に付けることができるよう、適切な指導・支援を行うことができる。 ○ 信頼される学校・教職員であるために、教育に携わる者としての自覚と規範意識を持ち、生徒への深い愛情に基づく教育を実践するとともに、同僚と協働することができる。

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待	<p>〈生徒〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・適切な友人関係の構築、自分の居場所の確保 ・分かりやすい授業、資格取得 ・卒業及び希望進路の実現 <p>〈保護者〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活規律の確立及び学校生活の充実 ・希望進路の実現 ・家庭との密接な連携 <p>〈中学校〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習意欲がありながら不登校等様々な課題を持つ生徒の受け入れ <p>〈地域〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の規範意識の向上 ・生涯教育の場の提供 	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待
	<p>〈保護者〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活規律の確立及び学校生活の充実 <p>〈中学校〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の居場所の確保及び生徒一人ひとりの特質を踏まえた対応 <p>〈カウンセラー・特別支援教育関係者・福祉関係施設・警察・行政等〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の居場所の確保及び生徒一人ひとりの特質を踏まえた対応 <p>〈地域〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の規範意識の向上 ・生涯教育の場の提供 	<p>〈保護者〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭での生活規律の確立や日常生活についての情報提供 <p>〈中学校〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校生活等の情報提供及び生徒への連携した関わり <p>〈カウンセラー・特別支援教育関係者・福祉関係施設・警察・行政等〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門分野における生徒への直接支援及び教職員の活動支援 <p>〈地域〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外部（地域）教育力として専門知識技能の提供及び生徒の見守り
(3) 前年度の学校関係者評価等	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力定着に向け、「わかりやすい授業」のための工夫と改善への取組、授業規律の改善への取組が積極的に進められ、授業への興味関心を高める努力がなされている。今後とも全教員が意識と情報を共有して取り組んでいてもらいたい。 ・学習意欲向上につながるよう ICT を活用した教育の充実に向け、他校の実践例等を参考にして指導方法や授業で有効に使えるソフトの整備に努めて欲しい。 ・中学校時代には学校生活や集団生活に馴染めず、不登校を経験し自信をなくしていた生徒達が、高校での学習活動や生徒会行事等への参加を通して、自分の意見を発信したり小さな成功体験を積み重ねることで自信と自己肯定感を持てるようになるとともに、 	

		<p>他者の意見も尊重できるようになってきているのは、全教員共通認識のもとでの取組の成果といえる。今後も様々な活動に生徒が自主的・積極的に参加できる仕組みを工夫しながら、自己成長できるよう支援の継続をお願いする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 早期から進学や就職について意識づけを図るため、職場体験等の機会を積極的に設け、生徒自身が体験を通じて卒業後の進路について考えるきっかけづくりをお願いしたい。また就労意識向上のため、仕事と人生の関わりや必要性について理解を深めることのできる取り組みを継続的に進めていって欲しい。 ・ アルバイトが学習を妨げる要因の1つとなっていることがアンケートより見受けられる。学校生活とアルバイトのバランスの取れた働き方を指導していく必要がある。また、身体が完成していく大切な時期であることも踏まえ、就寝時間や食事のことなど正しい生活習慣についても指導を進めて欲しい。
(4) 現状と課題	教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業規律の確保について全教職員で共通理解を図るとともに、教務部・生徒指導部・保健室・図書館等が連携することにより怠学に対する成果は上がってきている。今後は、授業時間90分の有効な活用方法やアクティブ・ラーニングのあり方、ICTの活用等について研究を進め、生徒の学習意欲を引き出す授業を一層推進していく必要がある。 ・ 新学習指導要領に対応するために、「総合的な探究の時間」や「学びの基礎診断」のあり方・活用等についての研究を進めるとともに、これまでの教育課程の検証を踏まえた新たな教育課程を検討していく必要がある。 ・ コミュニケーション能力や基本的な生活規律に課題を持つ多様な生徒が毎年多く入学してきており、個の課題に応じた対応が必要である。 ・ 通級指導については、その円滑な実施及び生徒の課題改善につながる効果的な指導となるよう、校内体制の構築や教員のスキルアップ、環境整備等を進める必要がある。
	学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 信頼される学校・教職員であるために、一人ひとりのコンプライアンス意識の醸成を図り、風通しのよい、活力ある組織づくりを推進する必要がある。 ・ 体罰の根絶及び未然防止のために、教職員一人ひとりが体罰によらない指導の在り方、学校としての組織的な取組について考える必要がある。 ・ 生徒数の減少に対応するため、ものづくり工学科の魅力化等、活力ある学校づくりを推進する必要がある。

3 中長期的な重点目標

教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒の主体的・対話的で深い学びを引き出す「わかりやすい授業」のための授業改善を進め、基礎学力の定着を目指す。 ○ 様々な機会をとらえ、生徒の社会的自立に必要なコミュニケーション能力や自己肯定感等、基盤となる素養の育成・向上を目指す。 ○ 生徒の実態を踏まえたキャリア教育を推進する。 ○ 生徒の情報共有を図り、分掌間の連携を密に行うことで、生徒のよりよい進路指導や生活指導、基礎学力の向上に努める。
学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> ○ 通級指導のあり方についての研究を進める等、特別支援教育体制のさらなる充実を図る。 ○ 会議時間の短縮や変形労働時間制等の活用等により総勤務時間の縮減を図り、働きやすい環境の整備を推進する。 ○ 信頼される学校・教職員であるために、教職員一人ひとりが生徒への深い愛情と強い使命感、責任感を持って、生徒と向き合い、日々の教育活動を行っていけるよう、風通しの良い、活力ある組織づくりを目指す。

4 本年度の行動計画と評価

(1) 教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「教育課程・学習指導」「キャリア教育(進路指導)」「生徒指導」「保健管理」など
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。
【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。
【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組 「◎」: 最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
基礎学力の定着	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業規律の確立を図る。 ・ 基礎学力の向上を図る。 ・ 授業の充実と改善を図る。 ・ 授業でのICTやオンライン授業等の活用を通じ学習意欲の向上を図る。 <p>【成果指標】 授業に対する「興味関心」・「内容理解」・「満足度」ともに85%以上</p>		
生徒自身の自己成長の支援	<ul style="list-style-type: none"> ・ 通級指導をはじめ、あらゆる場面を通して、コミュニケーション能力の向上等、社会的自立に必要な基本的スキルを育み、仲間づくりや個々の課題の克服を支援する。 ・ 自己肯定感の育成を図る。 ・ 命を大切にするとともに、いじめを許さない教育を推進する。 ・ 人権を守るための実践行動ができる力を育み、自らの進路や生き方を主体的に考えられる力を育成する。 ・ 生徒の心理理解に努める。 ・ 健康相談の充実を図る。 ・ 保健指導や保健管理を充実する。 ・ 図書館での生徒の成長を支援する。 <p>【活動指標】 自ら挨拶ができる生徒65%以上</p> <p>【成果指標】 各行事等における参加率及び満足度ともに90%以上</p>		
キャリア教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・ 計画的に教育活動全体を通して推進する。 ・ 早期から就労・就職支援を進め、生徒一人ひとりの進路実現を目指す。 ・ ものづくりの専門性を生かした職業教育を推進する。 <p>【活動指標】 進路だより 年3回以上発行 進路講話等 年3回以上実施</p>		
改善課題			

(2) 学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組 「◎」: 最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
特別支援教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・ 通級による指導の充実を図るため、校内体制の構築、校内環境の整備を進める。 ・ 対象生徒一人ひとりの課題に応じた、きめ細かな支援を行う。 <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「通級関係者会議」 年4回以上 ・ 特別支援教育、教育相談に関する「現職教育」 年3回以上 		
信頼される学校・教職員であるための取組	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教職員一人ひとりが不祥事を自分事としてとらえ、適切に行動できるよう、規範意識の醸成を図る。 ・ 教職員一人ひとりが生き生きと活躍できる職場環境をつくる。 <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 職員会議での校長による服務規律等に関する訓話 年5回以上 ・ コンプライアンスミーティングの実施 年1回 ・ 校長による面談 年3回以上 <p>【成果指標】</p> <p>職員満足度アンケート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「日々の仕事にやりがいを感じている」の『満足』が30%以上 ・ 「校長や教頭はいろんな意見を聴き取っている」の『満足』が50%以上 		
総勤務時間の縮減及び働きやすい環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1人当たりの月平均時間外労働 【活動指標】 3.5時間以下 ・ 年360時間を超える時間外労働者数 【活動指標】 0人 ・ 月45時間を超える時間外労働者の延べ人数 【活動指標】 0人 ・ 1人当たりの年間休暇取得日数 【成果指標】 15日以上/人 ・ 設定した日の定時に退校できた職員 		

	の割合 【活動指標】 90% ・週 1 回以上の休養日を実施できた部 下活動の割合 【活動指標】 100% ・60 分以内に終了した会議の割合 【活動指標】 90%以上		
改善課題			

5 学校関係者評価

明らかになった 改善課題と次へ の取組方向	
-----------------------------	--

6 次年度に向けた改善策

教育活動につ いての改善策	
学校運営につ いての改善策	

※ 結果の欄の記載は、今年度取り組む、取り組んでほしい事柄です。各分掌、教科、学年等各部の行動計画、具体的な取組に入れてください。